

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-3

<10週> インフルエンザ - 全国平均の定点あたり報告数が9.0と先週より増加している / その他最新動向



注目すべき感染症
P.4

<インフルエンザ> 第10週のインフルエンザ患者報告総数は41,505



病原体情報
P.5

インフルエンザウイルス分離・検出報告 / 感染性胃腸炎 - ロタウイルスおよびSRSV検出報告



速報
P.6

路上生活者より採取されたコロモジラミから *Bartonella quintana* が検出された



海外感染症情報
P.7-8

ロスリバーウイルス感染症とマレーバレー脳炎の流行 - オーストラリア / ポリオの流行: ドミニカ共和国とハイチ - 更新 / 他



感染症の話
P.9-11

セレウス菌感染症
病原体は食品における汚染頻度が高く、さらに加熱調理後も生残している場合が多い



読者のコーナー
P.12

マラリアの予防薬・治療薬での注意



グラフ総覧(10週)
P.13-19



10週のデータ
P.20-27



発生動向総覧

第10週コメント 3月19日集計分

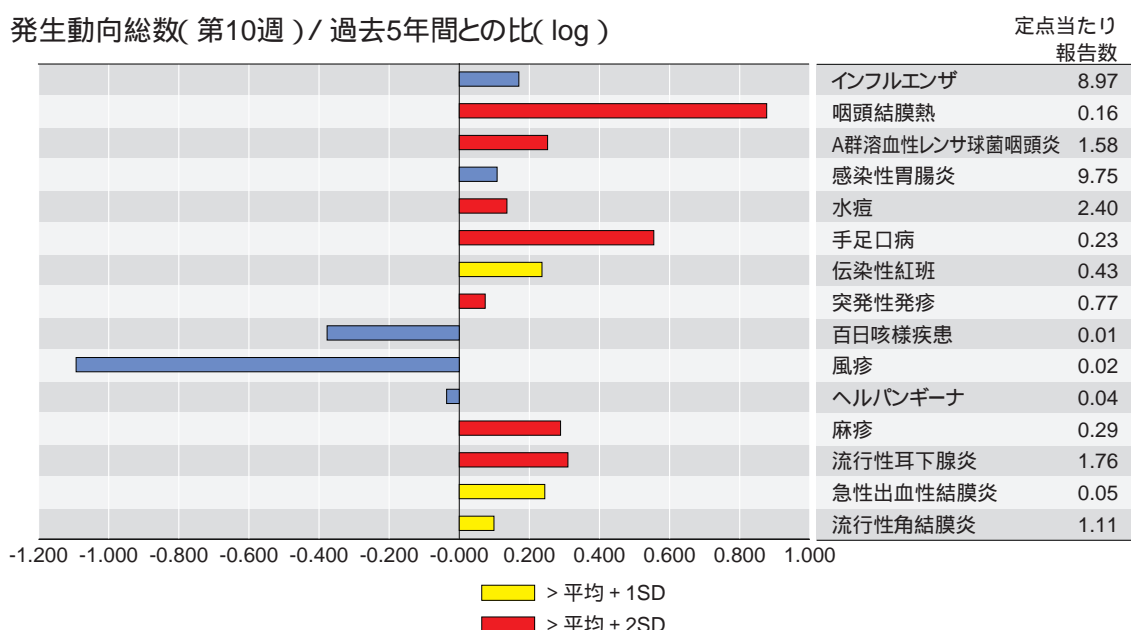
全数報告の感染症

- 1類感染症: 報告なし
- 2類感染症: コレラ1例(疑似症例)、細菌性赤痢17例(推定感染地: 国内2例、インド5例、インドネシア3例、カンボジア2例、インド/ネパール、タイ、エジプト、ベトナム、不明、各1例)、パラチフス2例(推定感染地: 2例ともインド)
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症15例
- 4類感染症: アメーバ赤痢5例、クロイツフェルト・ヤコブ病1例(孤発性)、ジアルジア症4例、急性ウイルス性肝炎6例
 - A型5例
 - B型1例__感染経路: 性行為感染
- 後天性免疫不全症候群13例(AIDS2例、無症候性キャリア9例、その他の病状2例)
 - 感染経路: 不明2例、性行為感染11例(同性間8例、異性間2例、同性間/異性間1例)
- 梅毒7例(晩期顕症1例、無症候5例、不明1例)
- デング熱1例(推定感染地: インドネシア)
- マラリア1例(卵形マラリア__推定感染地: ギニア)

定点把握の対象となる4類感染症(週報対象のもの)

流行性耳下腺炎と水痘は、過去5年の同時期と比較してかなり定点当たり報告数が多くなっている。流行性耳下腺炎は福井県で定点当たり報告数8.2、熊本県で5.4となっており、水痘は宮崎県で7.0、沖縄県で5.7、山口県と大分県で4.5、静岡県で4.0と報告が多くなっている。麻疹は例年の同時期とくらべて定点当たり報告数がかかなり多く、高知県で3.3、大分県で2.4となっている。インフルエンザは全国平均の定点当たり報告数が9.0と先週より増加している(詳細は4ページ注目すべき感染症参照)。咽頭結膜熱、手足口病は冬季としては例年になく定点当たり報告数が多くなっている(13~14ページグラフ総覧、咽頭結膜熱、手足口病参照)。

発生動向総数(第10週)/過去5年間との比(log)

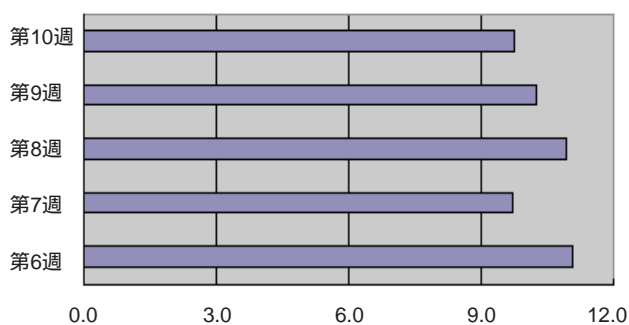


当該週と過去5年間の平均(過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均)の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

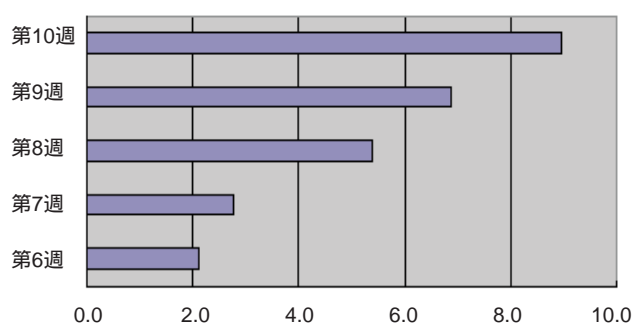
最近の注目疾患-5週間の動き

インフルエンザ患者は増加傾向にある。感染性胃腸炎とA群溶血性レンサ球菌咽頭炎は2週連続で定点当たり報告数が減少した。流行性耳下腺炎と水痘はこの数週間わずかな増減はあるものの、例年より定点当たり報告数がかなり多い状態が継続している。

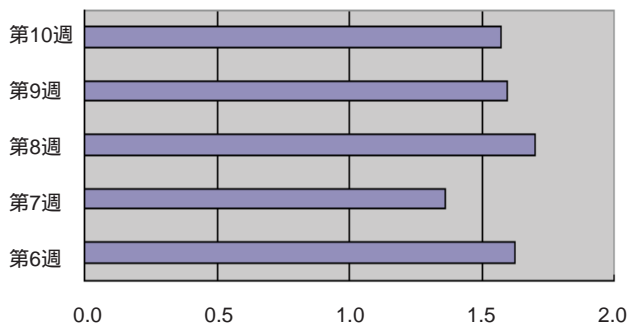
感染性胃腸炎



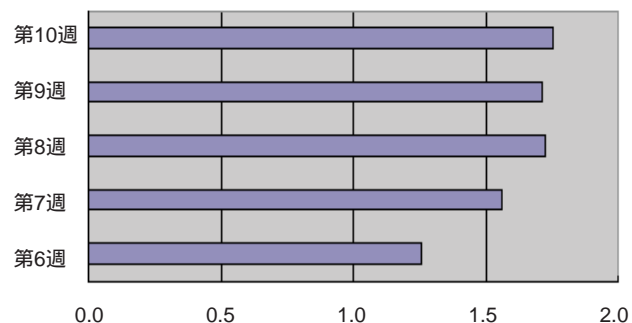
インフルエンザ



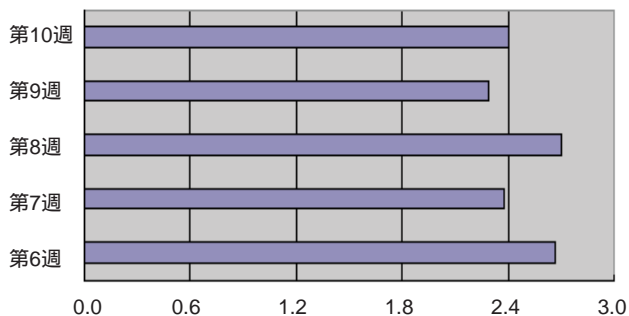
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



流行性耳下腺炎



水痘



(注) グラフの横軸は各疾患の定点当たり報告数(報告総数/定点総数)を表す。疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意。



注目すべき感染症

インフルエンザ流行状況

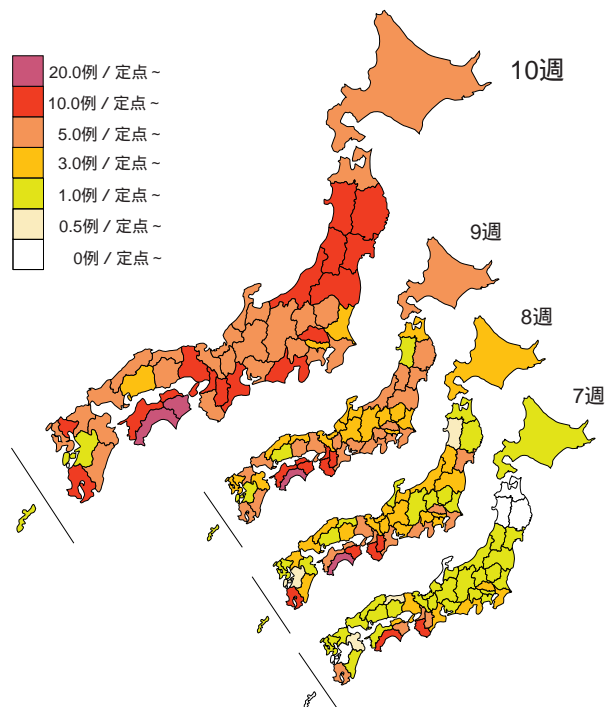
2000/2001シーズンのインフルエンザ患者発生は、過去5シーズンに比べ立ち上がりが遅く、2001年第5週になって初めて流行開始の指標と考えられる定点当たり報告数1を超え流行期に入った。その後第7~8週に報告数が倍増し、その後も患者数は増加傾向にある。

2001年第10週のインフルエンザ患者報告総数は41,505で、この1週間の1医療機関当たりの平均インフルエンザ患者受診数(定点当たり報告数)は8.97であった。定点当たり報告数が多くなっているのは、徳島県(23.2)、高知県(20.4)、奈良県(18.1)、宮城県(16.1)などである(都道府県別患者発生状況については右図参照。インフルエンザ患者から分離・検出されたウイルスについては5ページ病原体情報参照)。

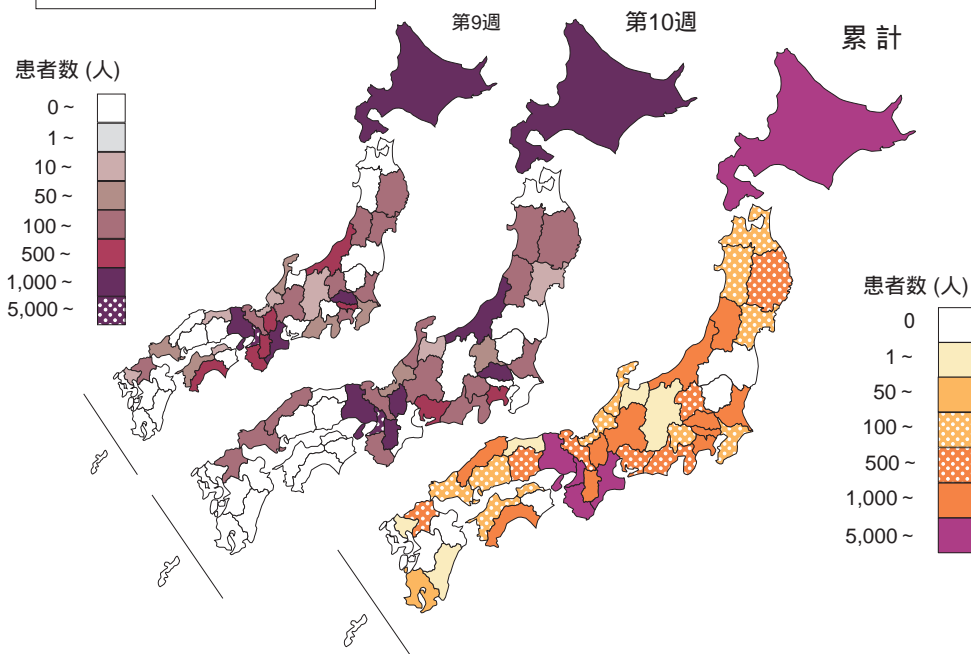
厚生労働省健康局結核感染症課のまとめによると、インフルエンザ様疾患発生報告数における学校欠席者数は、平成12年10月29日から平成13年3月10日までの累計で50,775人であり、昨年同期の259,214人に比べ5分の1程度となっている。

感染症発生動向調査警報・注意報発生システムによれば、2001年第10週には、高知県の6保健所、兵庫県の4保健所ほか計20保健所にインフルエンザ流行警報が、大阪府の18保健所、埼玉県の13保健所、兵庫県の11保健所、宮城県の10保健所ほか計173保健所にインフルエンザ流行注意報が発生している。

インフルエンザ発生動向調査
(10週時点)



インフルエンザ様疾患発生報告
(学級閉鎖に伴う患者調査)





病原体情報

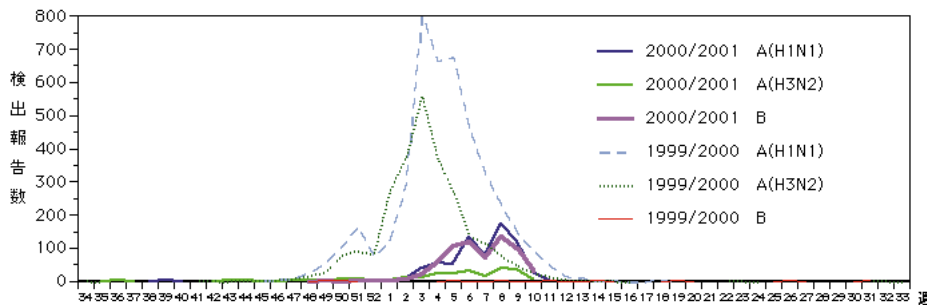
(2001年3月16日現在報告分)

*グラフはIASRホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html>)からの引用です。

インフルエンザ 2000/2001シーズン

今シーズンの分離ウイルスは、A/ソ連(H1N1)型が687件、A/香港(H3N2)型が216件、B型が654件報告されている。昨シーズンはA/ソ連(H1N1)型とA/香港(H3N2)型がともに第3週をピークとして分離されたが、今シーズンの各型のピークはこれより大きく遅れている。最近では、A/ソ連(H1N1)型が第9週に114(23都府県市)、第10週に27(仙台市、千葉市、横浜市、静岡県、名古屋市、奈良県、島根県、広島市、北九州市、熊本県)、第11週に2(横浜市)、A/香港(H3N2)型が第9週に34(18府県市)、第10週に5(仙台市、名古屋市、島根県、熊本県)、B型が第9週に100(22都府県市)、第10週に30(仙台市、千葉市、横浜市、石川県、静岡県、名古屋市、大阪市、奈良県、高知県、福岡市)が報告されている。

週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数、シーズン別比較(1999/2000、2000/2001)
(病原微生物検出情報: 2001年3月16日現在報告数)



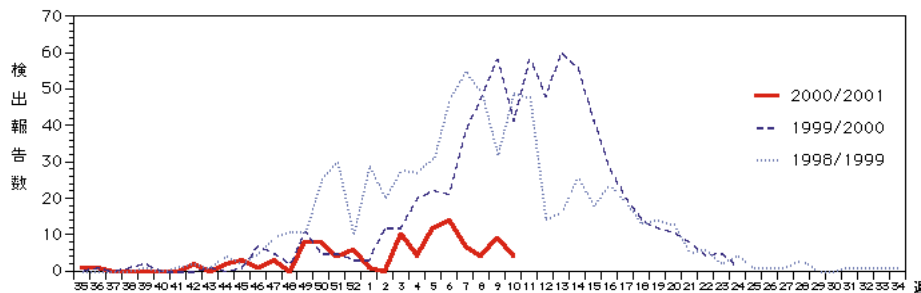
各都道府県市の地方衛生研究所からの分離報告を図に示した。



感染性胃腸炎 2000/2001シーズン ロタウイルスおよびSRSV検出報告

今シーズンのロタウイルスの検出は104件、SRSVの検出は556件報告されている。最近では、ロタウイルスは第9週に新潟県6、大阪市1、奈良県2、第10週に新潟県2、大阪市1、奈良県1、SRSVは第9週に新潟県3、北九州市1が報告されている。

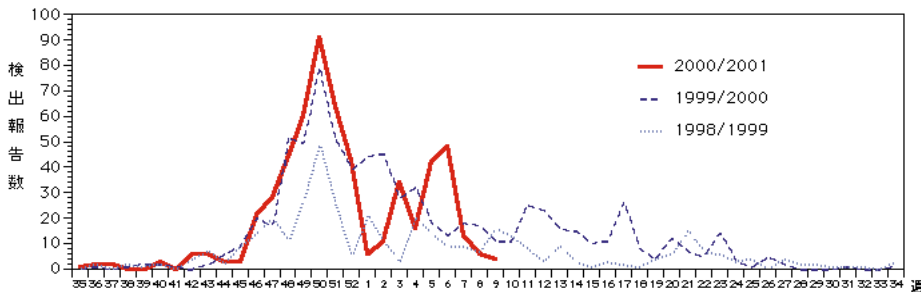
週別ロタウイルスの検出報告数、シーズン別比較(1998/1999、1999/2000、2000/2001)
(病原微生物検出情報: 2001年3月16日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。



週別SRSVの検出報告数、シーズン別比較(1998/1999、1999/2000、2000/2001)
(病原微生物検出情報: 2001年3月16日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。





路上生活者より採取されたコロモジラミから *Bartonella quintana* が検出された

Bartonella quintana は小型のグラム陰性桿菌で、コロモジラミが媒介する塹壕熱(trench fever)の病原体である。第一次世界大戦の時代には、ヨーロッパ戦線で100万人以上の一般人を含む兵士が感染し大きな問題となった。戦争終結後患者数が激減したが、第二次世界大戦で再び塹壕熱が流行した。しかし、戦後の急速な衛生環境の改善、コロモジラミ対策としてDDT等の殺虫剤の散布が広範に行われた結果、先進諸国においてはコロモジラミが媒介する発疹チフスや塹壕熱の患者はほとんど見られなくなった。1990年代になって、先進諸国の路上生活者やHIV患者に *B. quintana* が検出され始め、現在までに、米国のシアトル、フランスのマルセイユ、ロシアのモスクワ等のホームレスやコロモジラミから、病原体や抗体およびPCR法による特異的DNAが検出されている (Brouqui *et al.*, 1999; Gagua *et al.*, 1999; Jackson & Spach, 1996; Roux & Raoult, 1999)。我が国においても、東京都、大阪府を中心に路上生活者が増加傾向にある。東京都福祉局の統計では、1995年に23区内の路上生活者の推定数は3,300人であったが、2000年には5,700人と、明らかな増加が認められている。そこで、1999年5月から2000年5月の間に東京都豊島区内で行われた健康相談等の路上生活者対策の過程で、本人の承諾を得て破棄された12名分の衣類からコロモジラミを採取し、*Bartonella* 遺伝子の検出を試みた。

方法: ISOGEN (Sepasol-RNAI) のプロトコールに従って、コロモジラミよりDNAを抽出し、既に報告されている *Bartonella* 属特異的なプライマーを用いてPCRによる解析を行った。

結果: 12名中2名の路上生活者の衣服由来のコロモジラミから、*Bartonella* 由来のクエン酸合成酵素A遺伝子 (*gltA*) が検出された。また、*Bartonella* 由来16S-23S rRNA遺伝子の intergenic spacer region (ITS) は *gltA* のPCR産物陽性の2検体中1検体より検出された。そこで、これら検出された産物が *Bartonella quintana* 由来のものかどうかを検討するため、*gltA* 遺伝子を増幅させ、その産物から直接DNA塩基配列を決定した。その結果、2検体から検出された *gltA* 遺伝子産物は、共に *Bartonella quintana* に対して98%の相同性を示した。これらの事から東京都内の路上生活者に *B. quintana* が存在する事が分子生物学的手法で明らかとなった。

これらの結果から、各保健所、福祉センター、救急病院等では、コロモジラミ寄生が認められた路上生活者や独居老人等の診察において、塹壕熱の罹患による症状に対しても考慮する必要がある。さらに、この再興感染症が我が国においてどの程度広範に分布しているのか疫学調査を行うことが必要と思われる。

国立感染症研究所昆虫医科学部

小林睦生 佐々木年則 安居院宣昭

(IASR2001年4月号掲載記事より抜粋、詳細は同号参照)



海外感染症情報

ロスリバーウイルス感染症とマレーバレー脳炎の流行 - オーストラリア

Health Canada 2001年3月8日

ロスリバーウイルス感染症

ロスリバーウイルス感染症は蚊が媒介するオーストラリア土着のウイルス性疾患である。ロスリバーウイルスはオーストラリアの全ての州と自治区で見られるが、患者は北部の州と海岸地域に多く発生している。

2000年の12月27日までに南オーストラリア州のヒューマン・サービス局は西海岸、カンガルー島及びアルバート湖周辺地域でロスリバーウイルス感染患者60例を報告した。

2001年2月4日までにノーザンテリトリー疾病予防センターは、2001年1月の1カ月間で75人の患者を報告し、そのうちDarwin地区で26人、Barkly地区で25人、Katherine地区で20人が発生した。この症例数は昨年1年間にノーザンテリトリーで発生した153人の患者に相当する。昨年1月には同地域から報告された患者はそれぞれ39人、3人、4人であった。これは雨季が早まったためノーザンテリトリーが多湿な気候となり、蚊の繁殖に理想的な状況になったことによるものである。

マレーバレー脳炎

オーストラリアの脳炎として知られるマレーバレー脳炎(MVE)は、蚊が媒介しオーストラリア全土で発生するが、主にノーザンテリトリーのトップエンドやウェスタンオーストラリアの北西部で発生する。オーストラリアでMVEが最後に流行したのは1974年である。

蚊は野鳥や小型の哺乳動物からウイルスを獲得する。ニワトリの群れでのMVEウイルスの活動性を調査する事で、保健当局はヒトが感染する危険性を知ることができる。現在までにウェスタンオーストラリアのKimberley地域、Pilbara地域、ノーザンテリトリー全土、ウェスタンクイーンズランド、そしてニューサウスウェールズ西部にあるMacquarie Marshes地域(WarrenとWalgettの間)、Wanaaring地域(Bourkeの西200km)、Menindee地域(Broken Hillの南100km)及びBourke地域のニワトリの群れで、MVEウイルスの感染が確認されている。オーストラリア北部のほとんどの地域で、罹患する危険性がある。

クイーンズランドで子供のMVE患者1人が報告されている。

MVEの潜伏期間は5日から15日で、症状として錯乱、頭痛、頸部硬直、発熱、嘔吐、傾眠傾向があり、時として昏睡に至る。MVEには特定の治療法やワクチンはなく、致死性の疾患となりうる。蚊に刺されないようにすることが唯一の予防法である。感染した蚊に刺されても発症するのは1,000人に1人であると推定されている。Kunjinと呼ばれている軽症型の蚊媒介性ウイルス脳炎がオーストラリア北部で発見された。現在、Kunjinも流行しているという証左が見つまっている。

勧告

ノーザンテリトリーのテリトリー保健サービスは2月23日現在、ノーザンテリトリー、ウェスタンオーストラリア北西部、クイーンズランド西部及びニューサウスウェールズを訪れる人達に対し、この先2カ月以上の期間、蚊に刺されないように特に注意することを勧告している。公衆衛生当局は現在、ノーザンテリトリーのトップエンドから中央オーストラリアまでにマレーバレー脳炎とKunjinウイルス感染症に罹る危険性があるとしている。

ポリオの流行:ドミニカ共和国とハイチ - 更新

Eurosurveillance 2001年3月8日

2000年7月12日から2001年2月8日までにドミニカ共和国で12人のポリオ患者と33人の急性弛緩性麻痺(AFP)患者が確認され、ハイチでは1人のポリオ患者と3人のAFP患者が確認された。AFP患者の原因ウイルスは現在検査中である。

ポリオ患者の病因ウイルスは遺伝子学的に元の経口ポリオワクチン株に97%の相同性があり、ウイルスが免疫不全の個体内で長期間に渡って自己増殖していたか、予防接種率の低い地域で2年の長期間にわたり循環していたと思われる。

ヨーロッパの2001年狂牛病症例頭数の更新

Health Canada 2001年3月14日

国 名	個体数 (昨年度)	
ベルギー -	4	(9)
ルクセンブルグ	0	(0)
デンマ - ク	1	(1)
オランダ	1	(2)
フランス	8	(161)
スペイン	30	(2)
ドイツ	37	(7)
スイス	1	(33)
イタリア	1	(0)

南アフリカのコレラ流行 - 更新

WHO/CSR 2001年3月16日

3月14日までに、南アフリカ保健省はKwazulu-Natal州で69,761人の患者と139人の死亡者を報告した。



感染症の話

セレウス菌感染症

セレウス菌感染症は殆ど食中毒の形を取る。自然界に広く分布するセレウス菌による食中毒は古くから知られており、特にヨーロッパ諸国において、「芽胞を形成する桿菌」による下痢を主症状とした下痢型の食中毒発生が1950年代に報告されている。1970年代になり、イギリスで炒飯などの喫食による嘔吐を主症状とした嘔吐型のセレウス菌食中毒が報告され、その後欧米各国で同様の事例が報告された。わが国においても1960年代以降セレウス菌食中毒が報告されており、そのほとんどが嘔吐型である。厚生省は1982年3月に食中毒の原因菌として新たに追加指定し、1983年の食中毒統計から病因物質として記載されるようになった。

表1. 日本における細菌性食中毒の発生状況 (1983年～1999年)

	事件数 (%)	患者数 (%)
総事件数	19,937	615,618
細菌性食中毒合計	15,693 (78.7)	505,617 (82.1)
腸炎ビブリオ	6,056 (30.4)	136,901 (22.2)
サルモネラ	4,086 (20.5)	145,540 (23.6)
黄色ブドウ球菌	1,870 (9.4)	44,359 (7.2)
カンピロバクター	1,766 (8.9)	50,061 (8.1)
病原大腸菌	1,225 (6.1)	76,933 (12.5)
ウエルシュ菌	329 (1.7)	39,296 (6.4)
セレウス菌	201 (1.0)	7,697 (1.3)
ボツリヌス菌	26 (0.1)	100
ナグビブリオ	22 (0.1)	298
その他の細菌	112 (0.6)	4,432 (0.7)

疫学

セレウス菌食中毒には嘔吐型と下痢型がある。わが国におけるセレウス菌食中毒は嘔吐型がほとんどであるが、その発生数や患者数はそれ程多いものではない。1983年から1999年までの17年間に発生し届出された食中毒総数19,937事例のうち、セレウス菌食中毒は201事例、患者数7,697名でいずれも1%程度を占めるにすぎない(表1)。また、その発生規模も1事例当たりの患者数が10名前後の小規模発生がほとんどであるが、時に患者数100名を超える大規模な事例も見られる。表2に大規模食中毒事例を示したが、学校や事業所での事例が多く、患者数1,800名を超える事例までみられている。多発時期は他の細菌性食中毒と同様、夏期に多く発生している。表3には原因食品別発生状況を示したが、穀類と複合調理食品によるものが大部分を占め、具体的には、米飯、スパゲティが嘔吐型食中毒の原因食品となっている。下痢型の原因食品としては、食肉製品や野菜、そしてこれらを材料としたスープなどがあげられている。

表2. セレウス菌食中毒の大規模事例 (1983年～1999年: 100名以上)

発生年月	患者数	原因食品	喫食場所
1984年 7月	142	給食弁当	社員食堂
1985年 10月	110	ゆでめん	学校
1986年 9月	210	おにぎり	学校
1987年 9月	318	米飯(幕の内弁当)	飲食店
1989年 7月	191	不明	旅館
1990年 1月	350	仕出し弁当	会社など
1990年 8月	291	牛乳	家庭・保育所など
1991年 8月	359	給食弁当	社員食堂など
1991年 9月	1,877	学校給食	学校
1992年 4月	541	弁当	学校など
1995年 10月	296	仕出し弁当	患者自宅など
1996年 5月	254	スパゲティ	学校食堂
1998年 10月	516	米飯(弁当)	飲食店

表3. 原因食品別セレウス菌食中毒の発生状況 (1983年～1999年)

原因食品	事件数 (%)	患者数 (%)
穀類およびその加工品	88 (43.8)	1,798 (23.4)
複合調理食品	70 (34.8)	3,483 (45.3)
野菜およびその加工品	5 (2.5)	158 (2.1)
魚介類	3 (1.5)	66 (0.9)
乳類およびその加工品	1 (0.5)	291 (3.8)
肉類およびその加工品	1 (0.5)	2
菓子類	1 (0.5)	2
不明	10 (4.5)	335 (4.4)
その他	22 (10.9)	1,562 (20.3)
合計	201	7,697

病原体

Bacillus 属には30種以上の菌種が知られており、炭疽の病原菌である*B. anthracis* は良く知られた病原菌である。セレウス菌(*B. cereus*)は100 30分の加熱にも耐える芽胞の形で土壌などを中心に自然環境に広く分布し、野菜や穀物などの農産物を汚染している菌である。また、セレウス菌は溶血毒をはじめ、いくつかの毒素を産生することが知られているが、食中毒に関係するのは嘔吐毒と下痢毒である。嘔吐毒本体はCereulideと呼ばれる環状ペプチドで、消化酵素や熱、酸・アルカリにも安定であるため、食品中で産生された毒素そのもので中毒が発現する。一方、下痢毒本体はタンパク質であり、ペプシンやトリプシンといった酵素や、60 以上の加熱、pH4以下の酸性条件などによって失活することが知られている。したがって、原因食品中に産生された毒素では胃酸や消化酵素によって不活化されるので、下痢は起こらないと考えられる。

臨床症状

セレウス菌食中毒の症状は嘔吐型と下痢型で異なる。嘔吐型は食品内で産生された毒素によって発症する毒素型食中毒で、潜伏時間は30分～5時間で嘔吐が主である。実際に1987年に東京で発生した事例における患者318名の症状発現状況を見ると、主な症状は嘔吐、吐き気、下痢、腹痛であり、いずれも軽症であった(表4)。一方、下痢型は原因食品内で増えた菌が喫食され、生体内で産生された毒素によって起こる感染型(生体内毒素型)であり、潜伏時間は6～15時間と長く、下痢が主症状である。

表4. 1987年東京都内で発生したセレウス菌食中毒における患者の臨床症状(患者数: 318名)

臨床症状	発症者数(%)
嘔吐	147 (46.2)
吐き気	125 (39.3)
下痢	95 (29.9)
腹痛	90 (28.3)
発熱	17 (5.3)
頭痛	15 (4.7)
げっぷ	5 (1.6)
悪寒	4 (1.3)
倦怠感	4 (1.3)
膨満感	3 (0.9)

病原診断

セレウス菌食中毒は、臨床症状、潜伏時間、および原因菌の検出頻度等によって診断されているのが現状である。自然環境からよく検出される本菌と食中毒の原因となる本菌との区別については、後者がでんぷん分解性陰性であることから、でんぷん分解能検査が役立つと思われる。セレウス菌の鞭毛抗原によるH血清型別は特異性が高く、セレウス菌の血清型別に応用されるが、試薬の市販品はない。原因食品や患者試料などから検出された菌株間における同一血清型菌の検出頻度は、食中毒診断にとって重要な判定資料となる。一方、病原本体である毒素の検出では、下痢毒についてはラテックス凝集反応による検出キットがあるが、嘔吐毒の簡易な検査方法は開発されていないため、食品や検出菌株の毒素を検出することは困難である。

治療・予防

本食中毒患者には下痢や嘔吐に対する水分や栄養補給などの対症療法程度で、特別な治療は必要ないと考えられる。

セレウス菌は食品における汚染頻度が高く、さらに加熱調理後も生残していることが多いことから、予防対策としては、食品中での菌増殖を押さえることが第一である。嘔吐型、下痢型、いずれの場合も食品中で原因菌が増えることが発生要因となる。したがって、調理から喫食までの時間と温度管理が最も重要な予防法である。

食品衛生法での取り扱い

食中毒が疑われる場合は、24時間以内に最寄りの保健所に届け出る。

(東京都立衛生研究所微生物部 柳川義勢)



読者のコーナー

Q:極く最近、マラリアの予防薬あるいは治療薬にて突然死した人があると聞きましたが、マラリア流行地へ行くことが多く、予防薬を現地で購入して飲むこともあるので心配です。(埼玉県K生)

マラリアの予防薬・治療薬での注意

生来健康であった米国の22才学生が西アフリカにてメフロキン(日本国内未認可、商品名Lariam, Mephaquinなど)でのマラリア予防を行っていましたが、運悪くマラリアに罹患し、現地にてハロファントリン(日本国内未認可、商品名Halfan)を処方されました。それが効いたのか翌日には解熱しましたが、翌々日に急死しました。今まで気づかれなかったのですが、解剖の結果、肥大型心筋症(心臓の筋肉自体の病気)があることが判明しました(MMWR 50(09); 169, 2001)。

ハロファントリンはアフリカで良く使われているマラリア治療薬で、予防薬としては使われていませんが、健康な方でも心電図でのQT間隔延長、場合により致命的な心室性不整脈を起こしうることが知られています。したがって、健康な方でも使用前には心電図検査を受けること、心臓に問題のある方では使用しないこと、などが強調されてきました。一方、メフロキンはマラリアの治療と予防に使われており、特に予防では熱帯熱マラリアが流行する多くの地域において使われています。メフロキン単独での予防ではこのような心臓の問題は、少なくとも健康者においては問題となっておりません。

問題はメフロキンで予防をしている、あるいは治療で服用した方が、すぐにハロファントリンを服用する場合であり、これはハロファントリンによる上記心臓の問題を起こしやすいので、健康者においても禁忌とされています。この米国人の死亡例ではさらに、外見全く健康でも肥大型心筋症があったこと、また、QT延長を起こしやすい他の薬も同時に飲んでいただけなど、悪条件が重なったと思われます。しかし繰り返しますが、健康人でもメフロキンの後にハロファントリンを服用するのは危険であり、止めるべきであるということです。それでは、メフロキンを服用してどれだけ期間が経てばハロファントリンを飲んで大丈夫かという、今のところはっきり解っていません。

メフロキン、ハロファントリン両者ともに国内で市販されていませんが、海外にて入手あるいは処方されて服用する機会があるかもしれません。両者の組み合わせ、その順番などには十分注意しなければなりません。

(国立感染症研究所感染症情報センター)

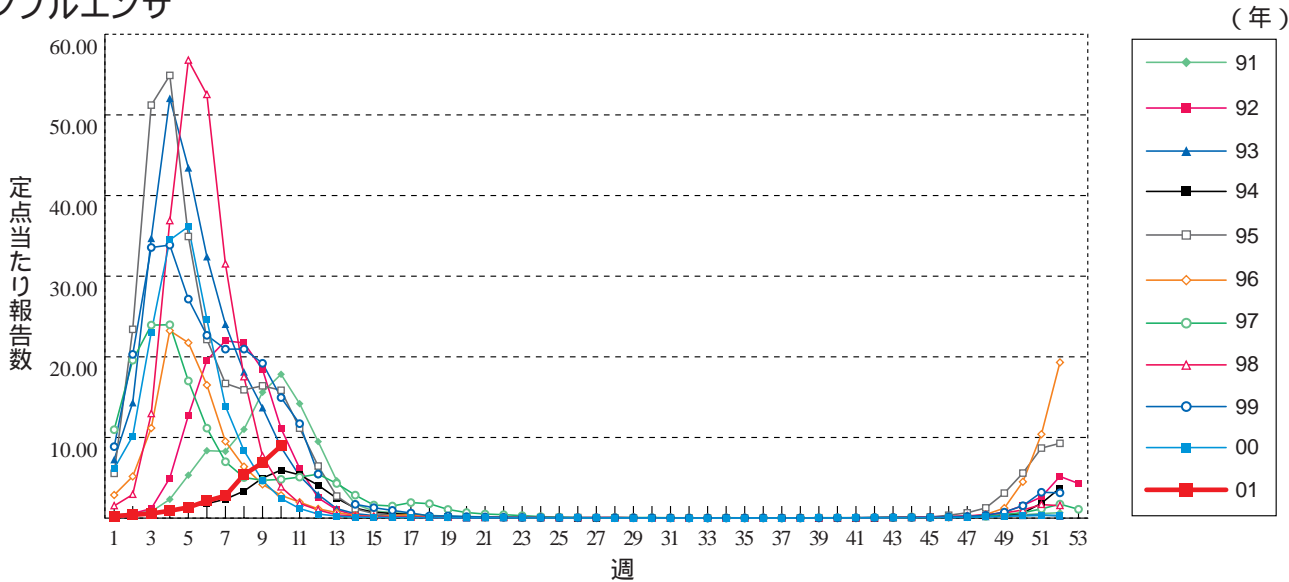
「読者のコーナー」では読者のみなさまからのご意見・ご質問をお待ちしております。
ご意見・ご質問は、題名(タイトル)の一番はじめにidwr-QをつけてこちらまでEメールでどうぞ。

idsc-query@nih.go.jp

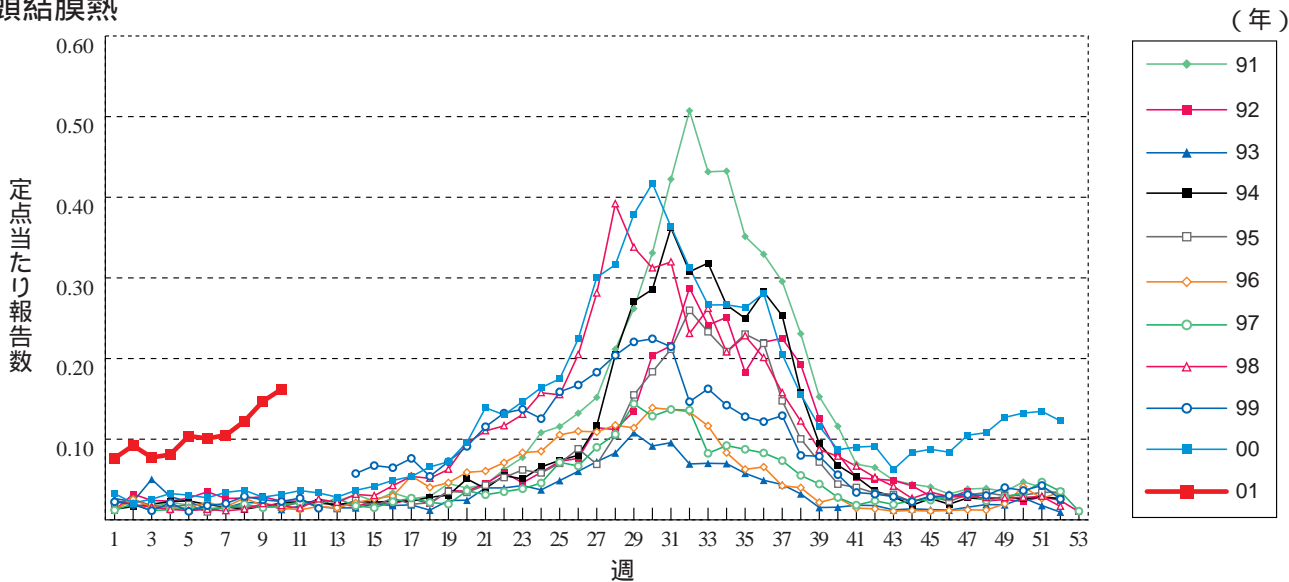


グラフ総覧(10週)

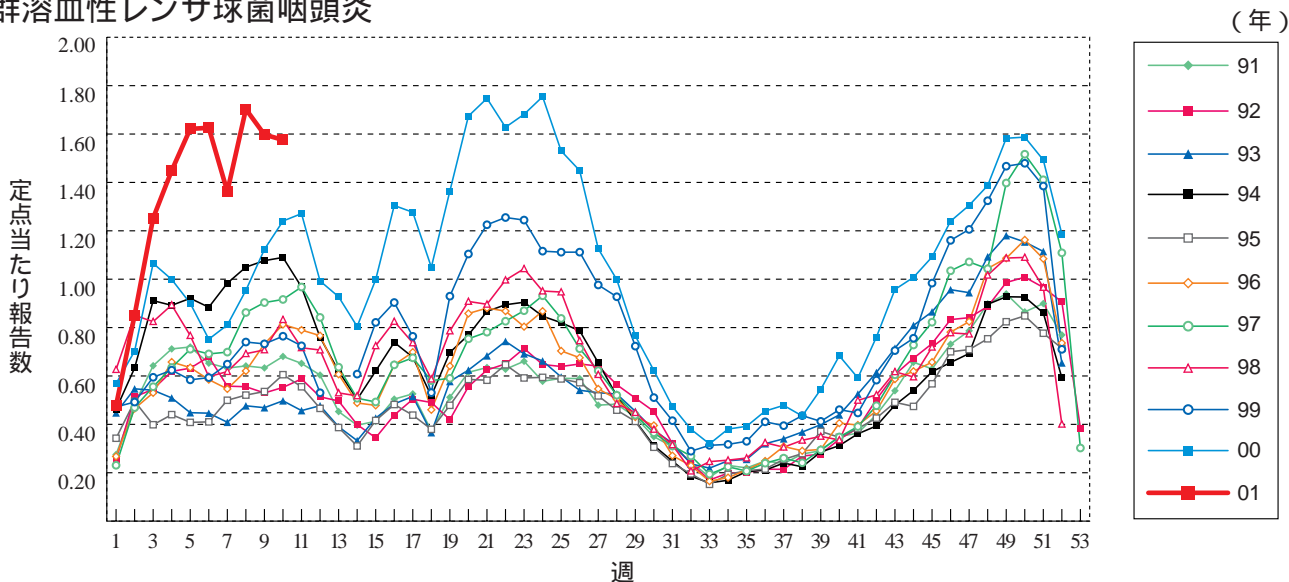
インフルエンザ



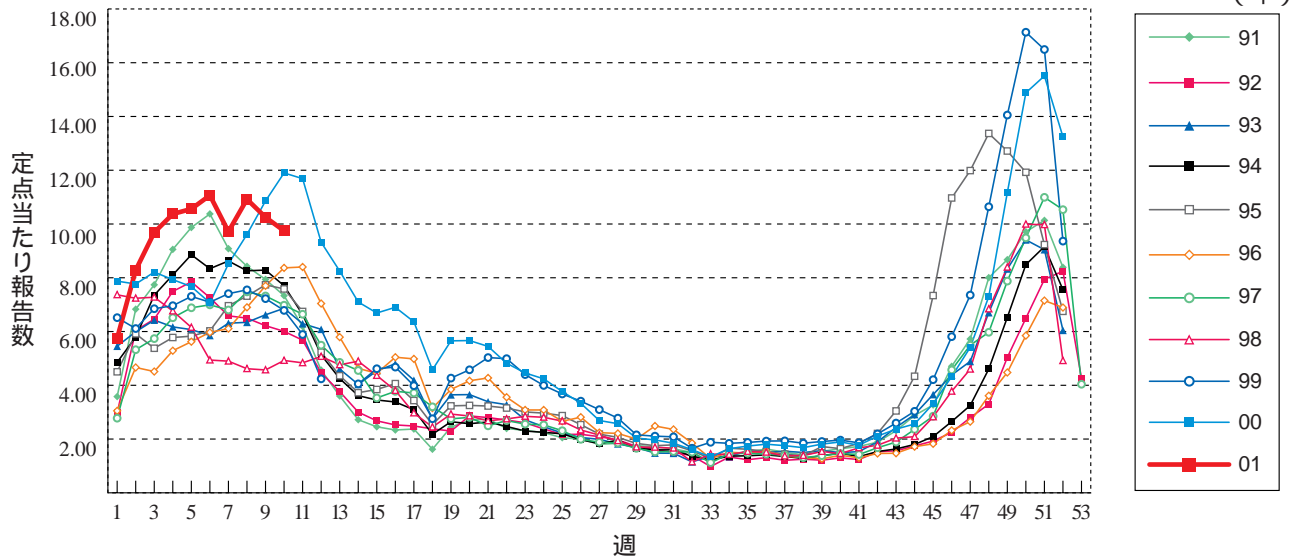
咽頭結膜熱



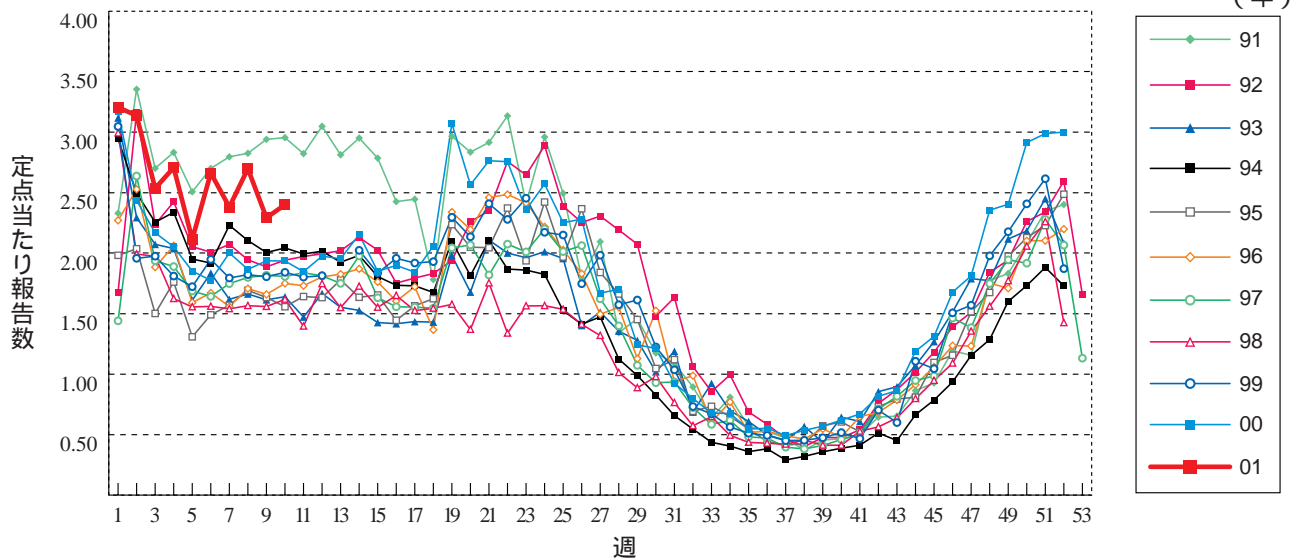
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



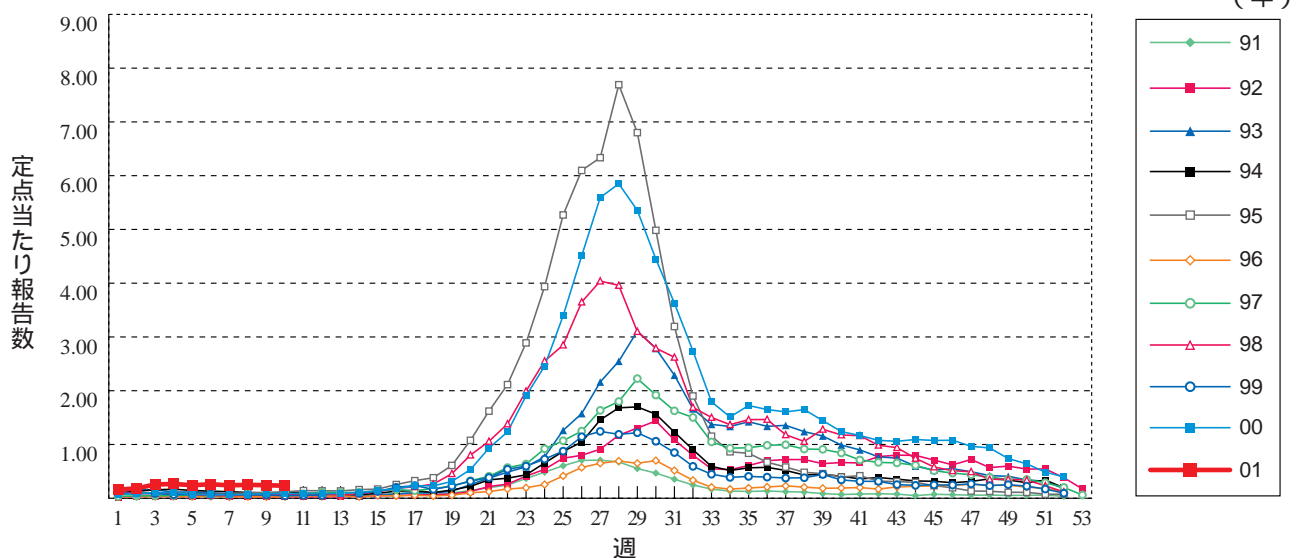
感染性胃腸炎 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



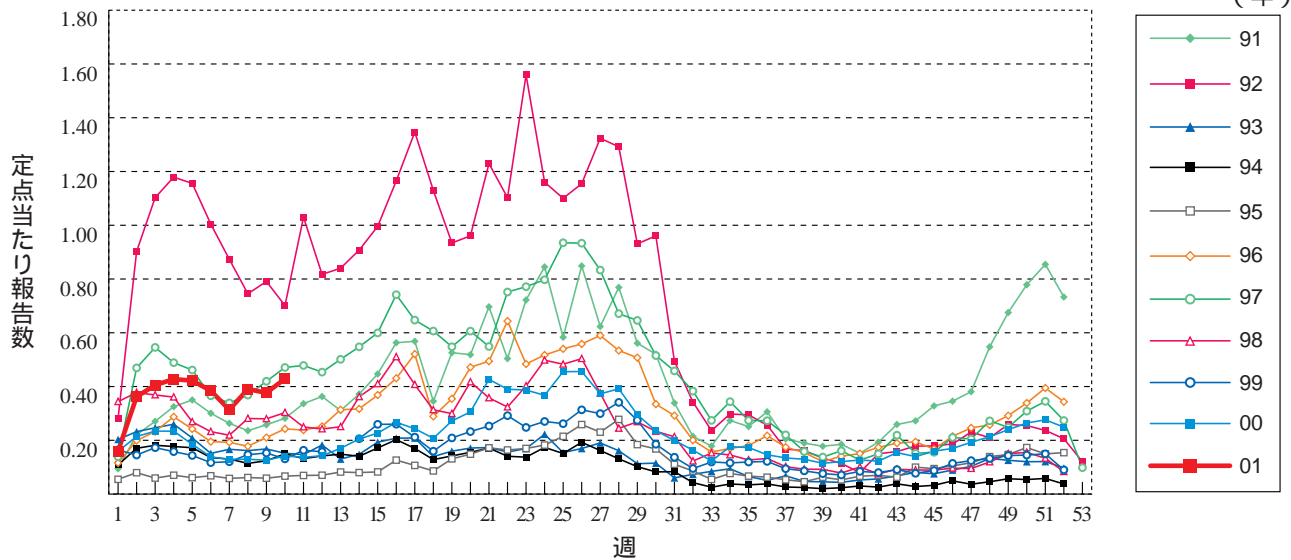
水痘



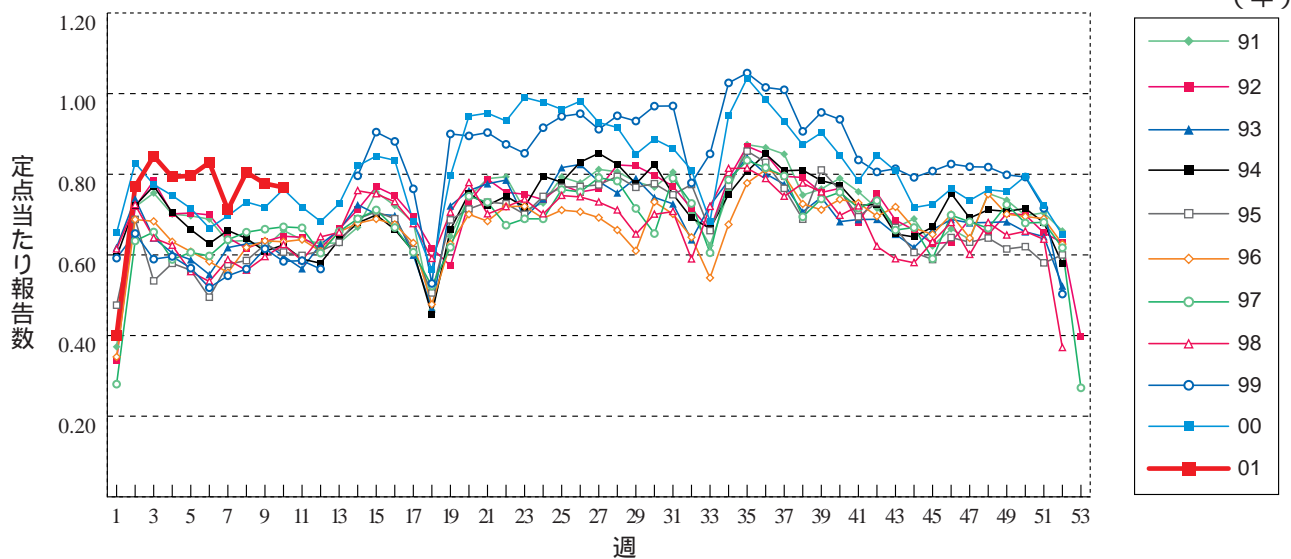
手足口病



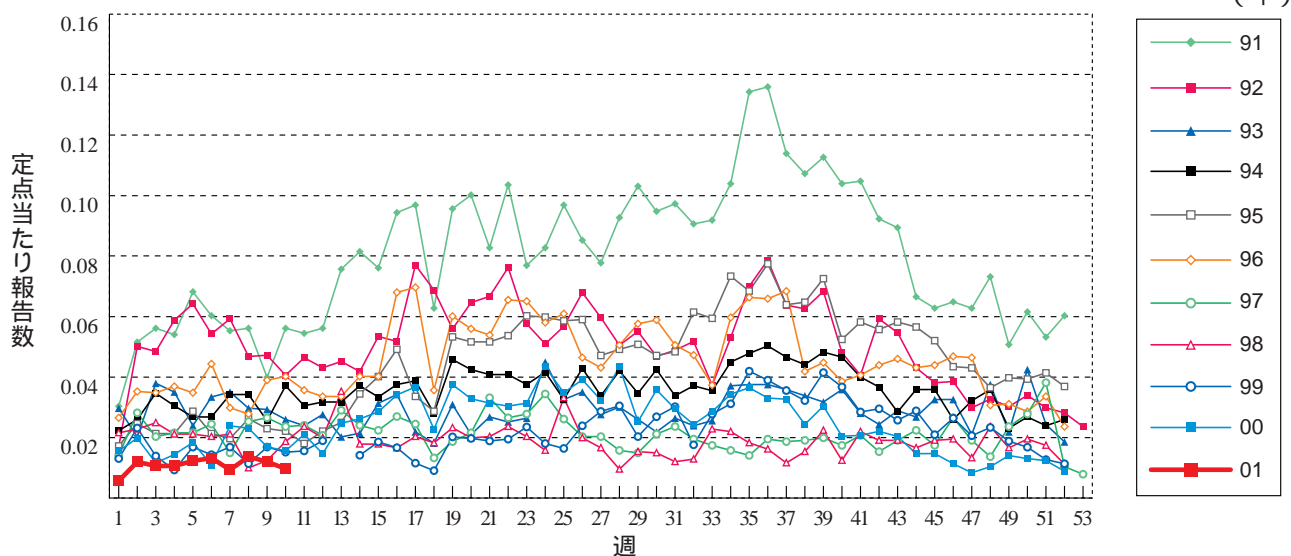
伝染性紅斑



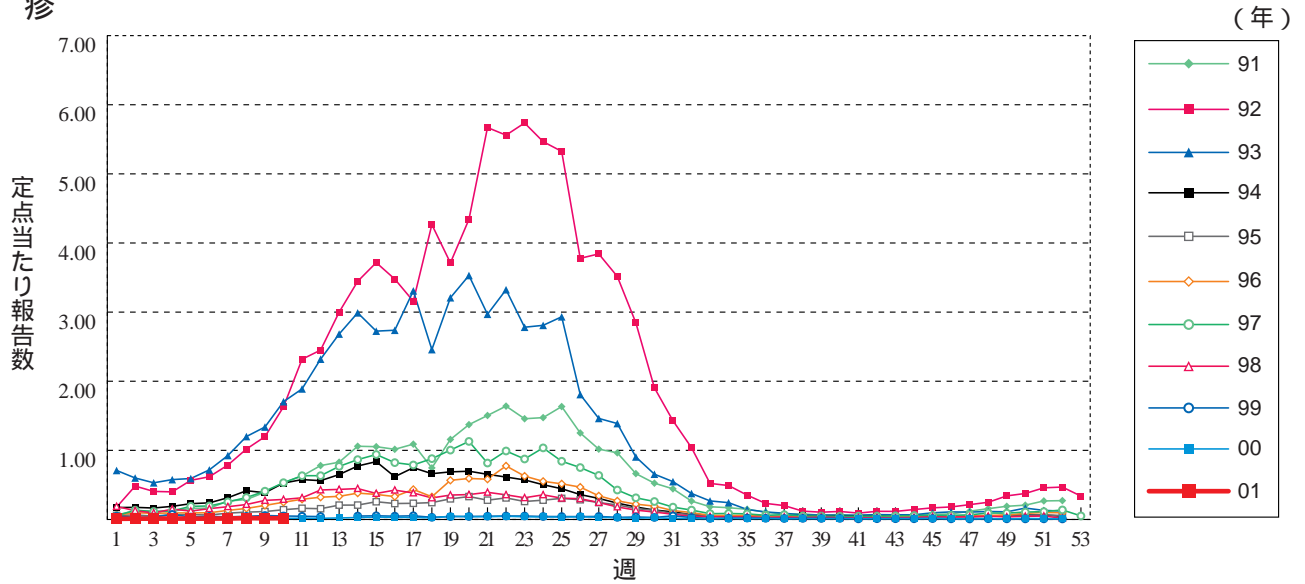
突発性発疹



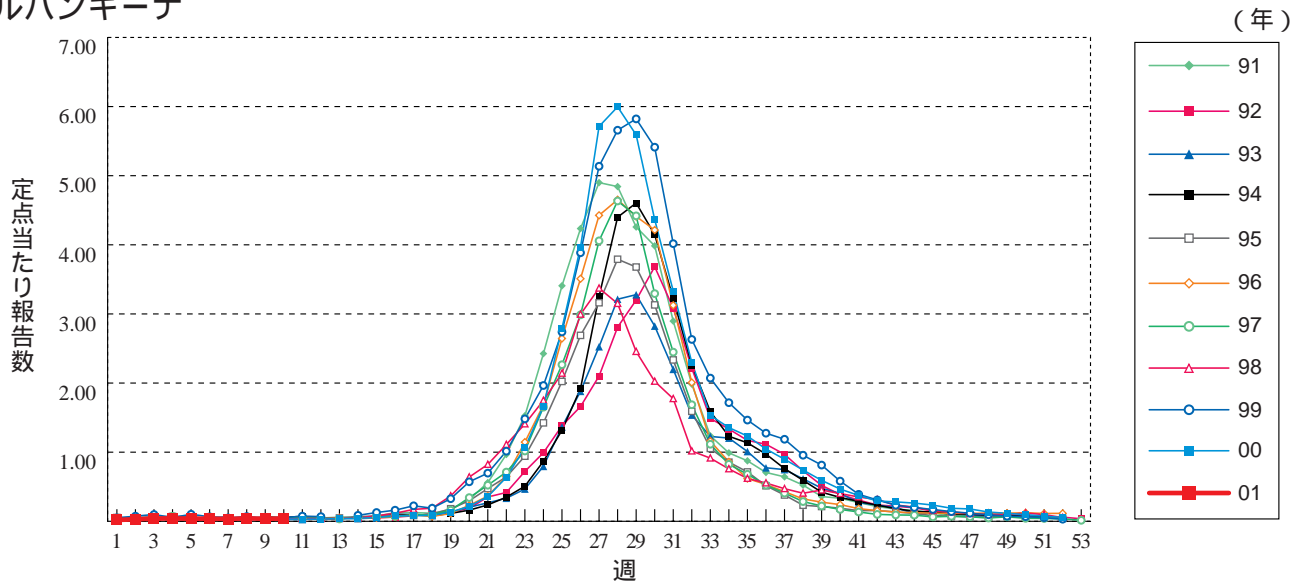
百日咳



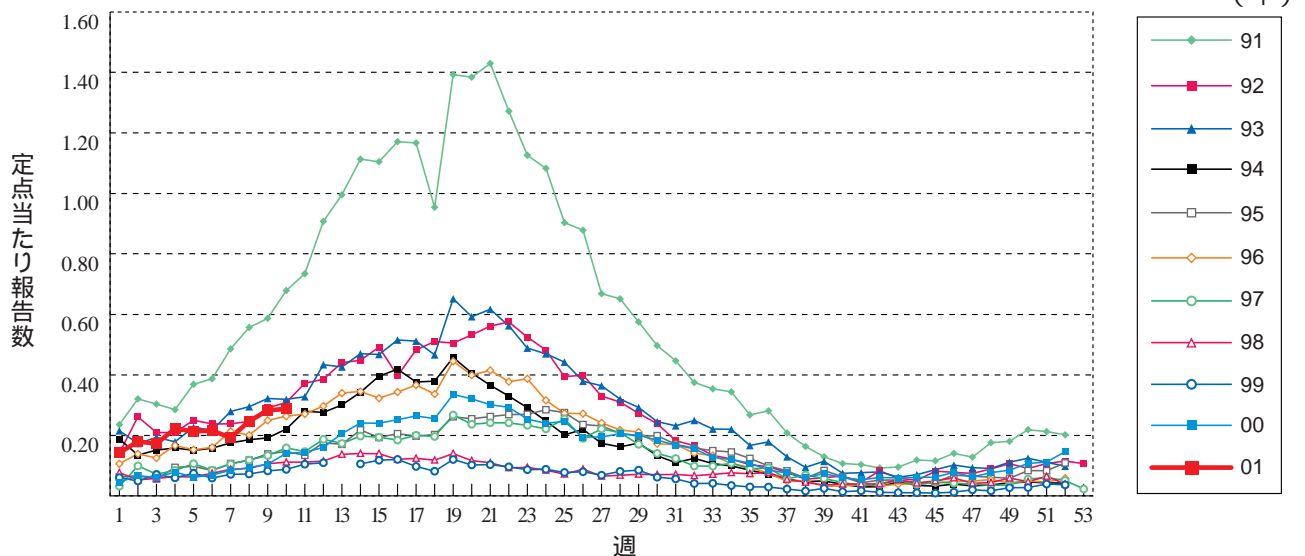
風 疹



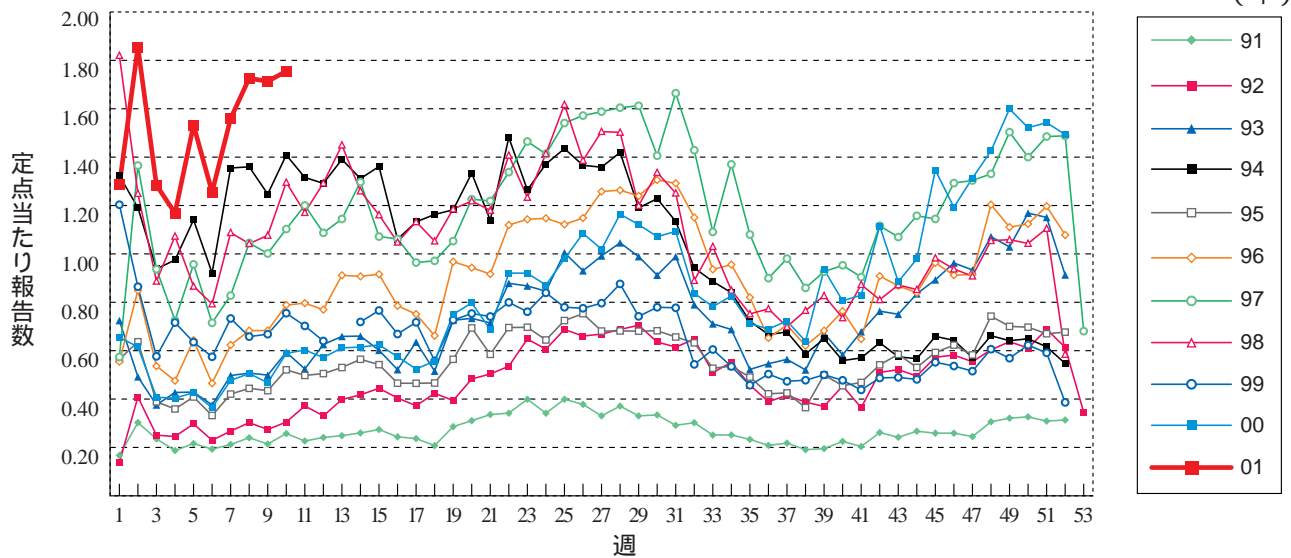
ヘルパンギーナ



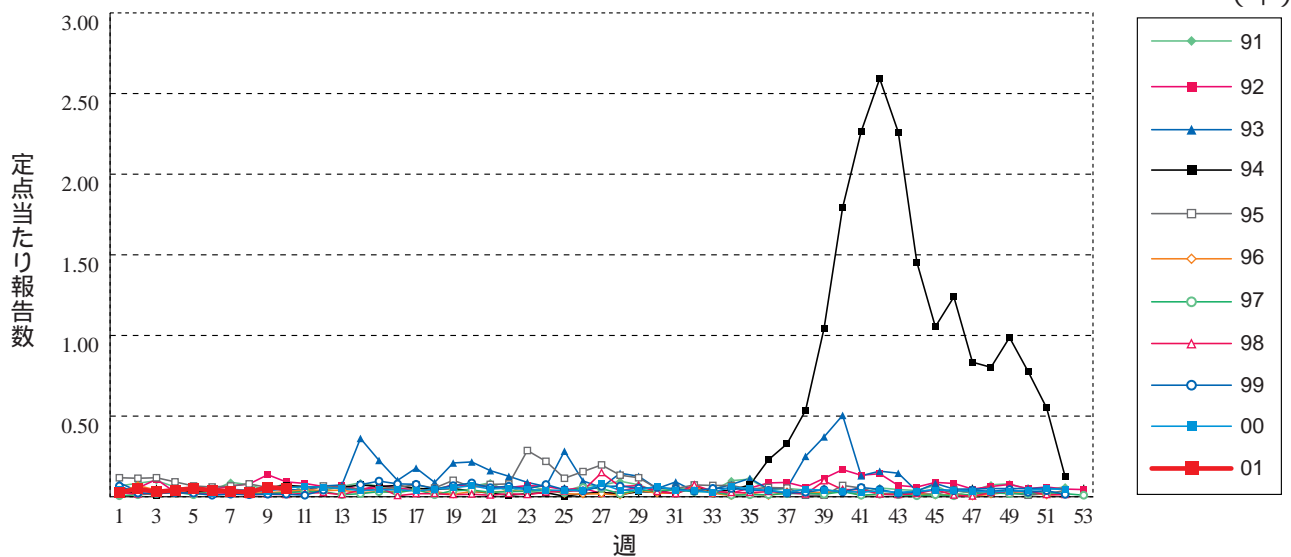
麻 疹 (成人麻疹を除く) 1999年の12週以前は成人麻疹を含む



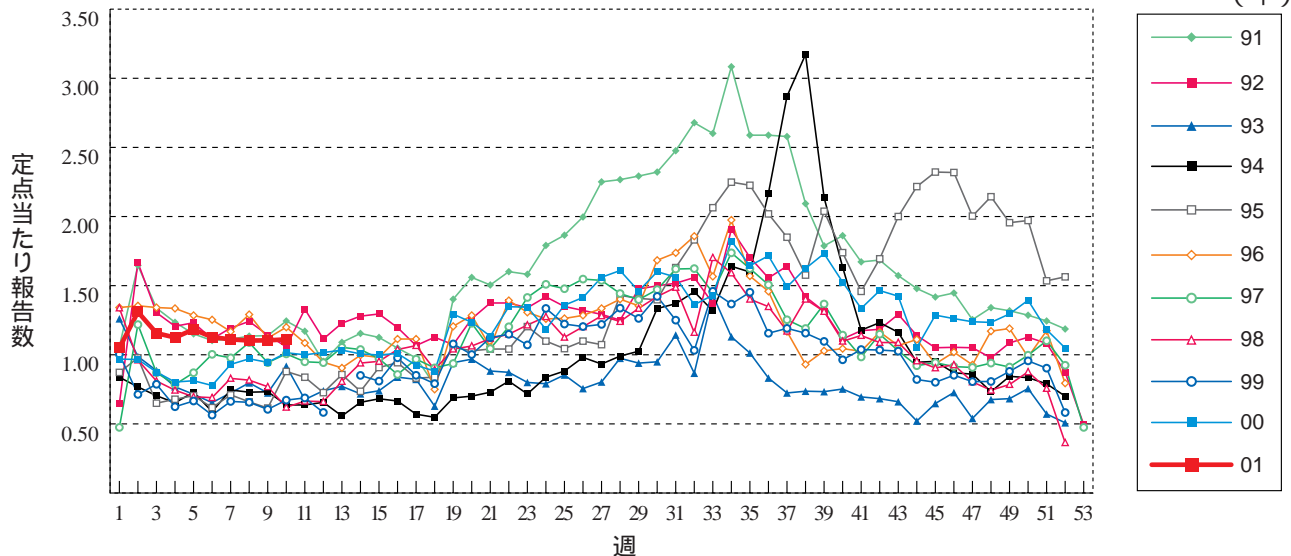
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

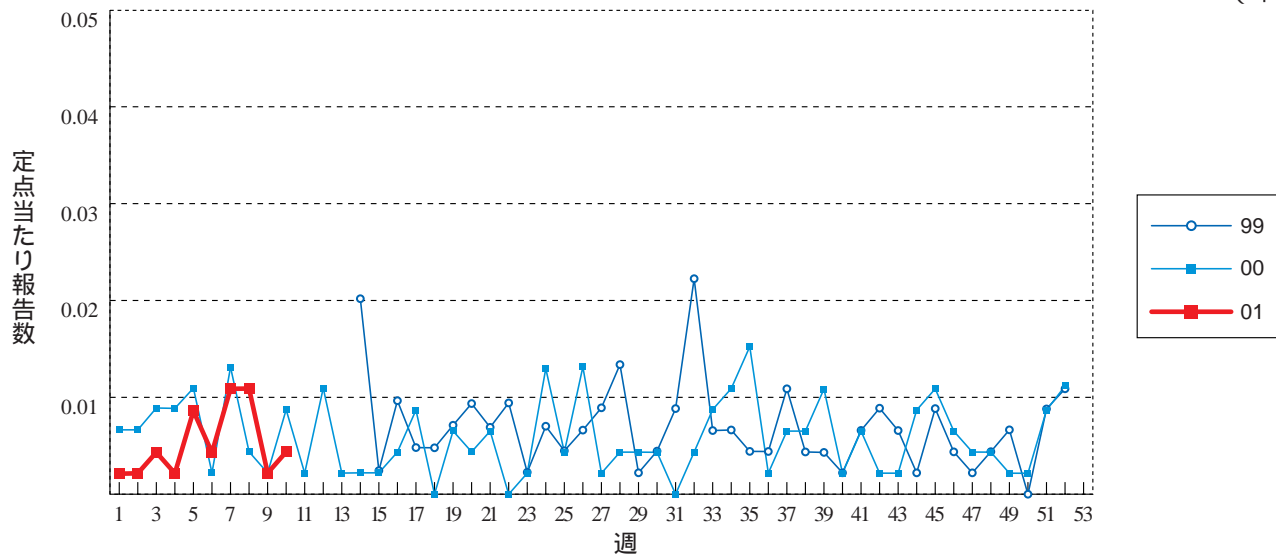


流行性角結膜炎



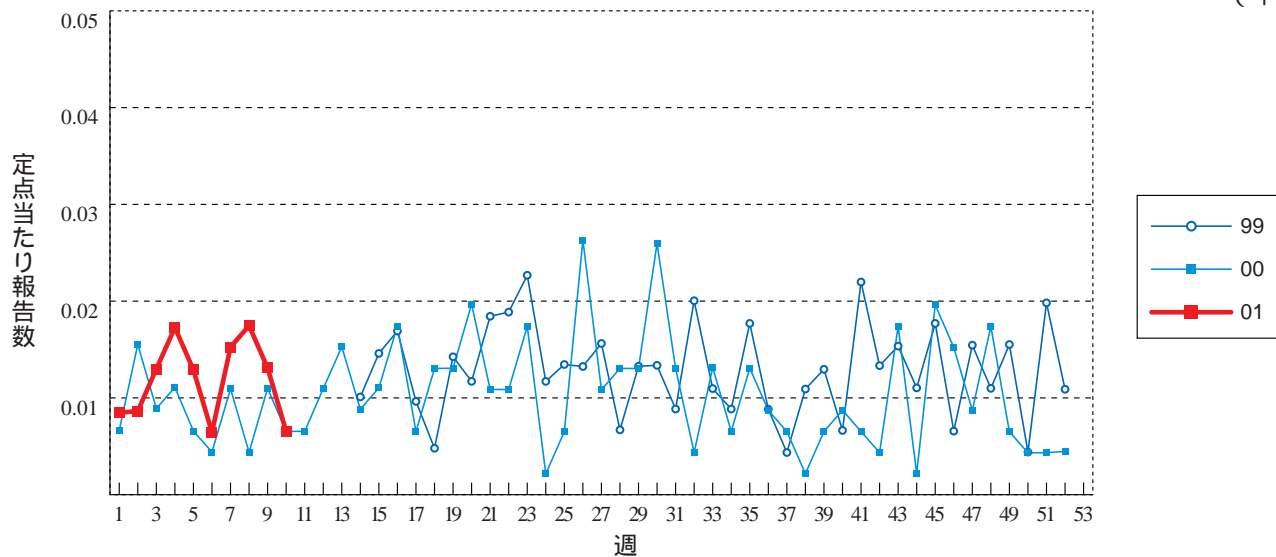
急性脳炎 (日本脳炎を除く)

(年)



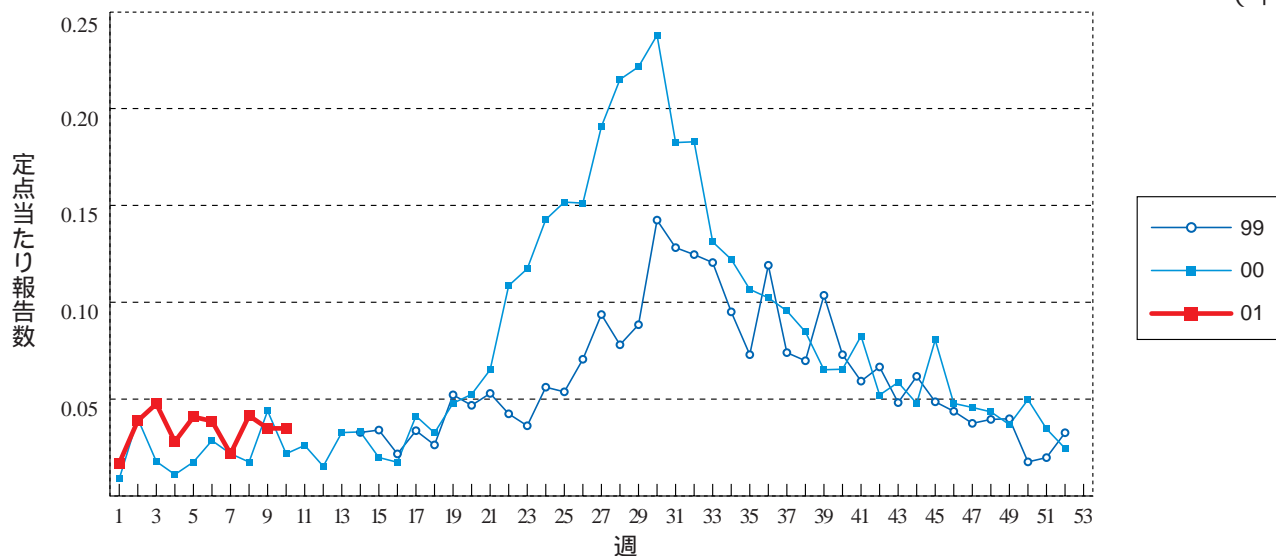
細菌性髄膜炎

(年)



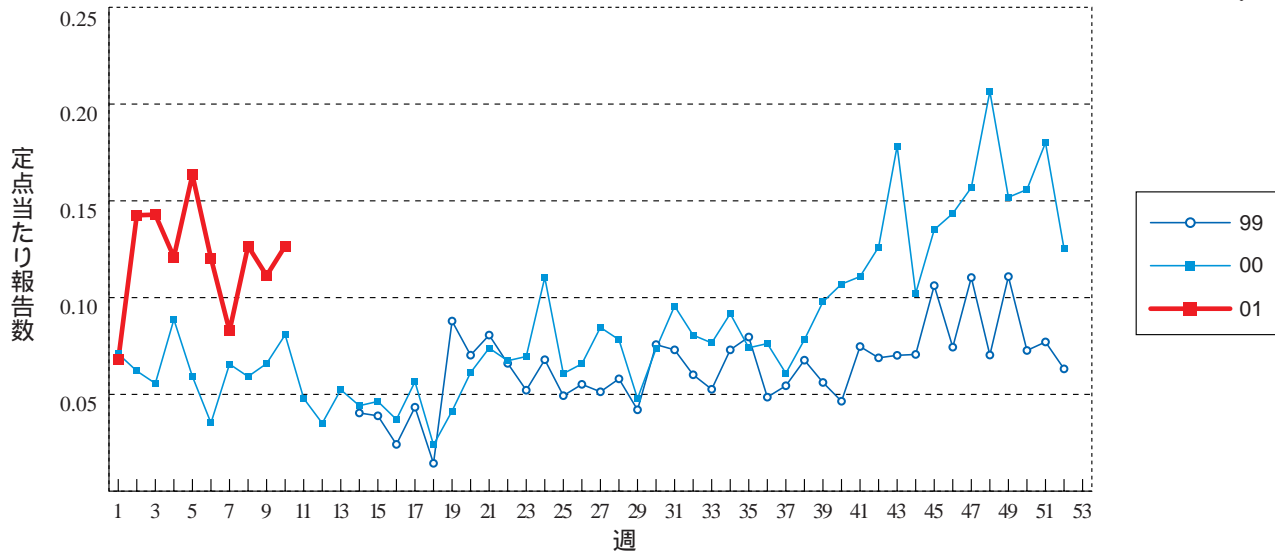
無菌性髄膜炎

(年)



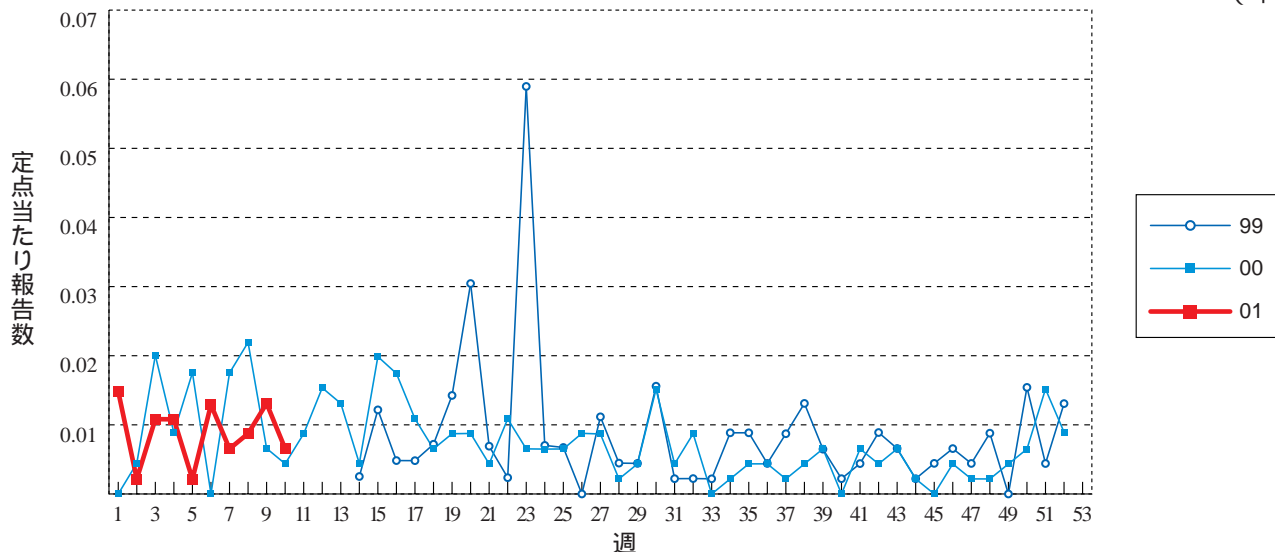
マイコプラズマ肺炎

(年)



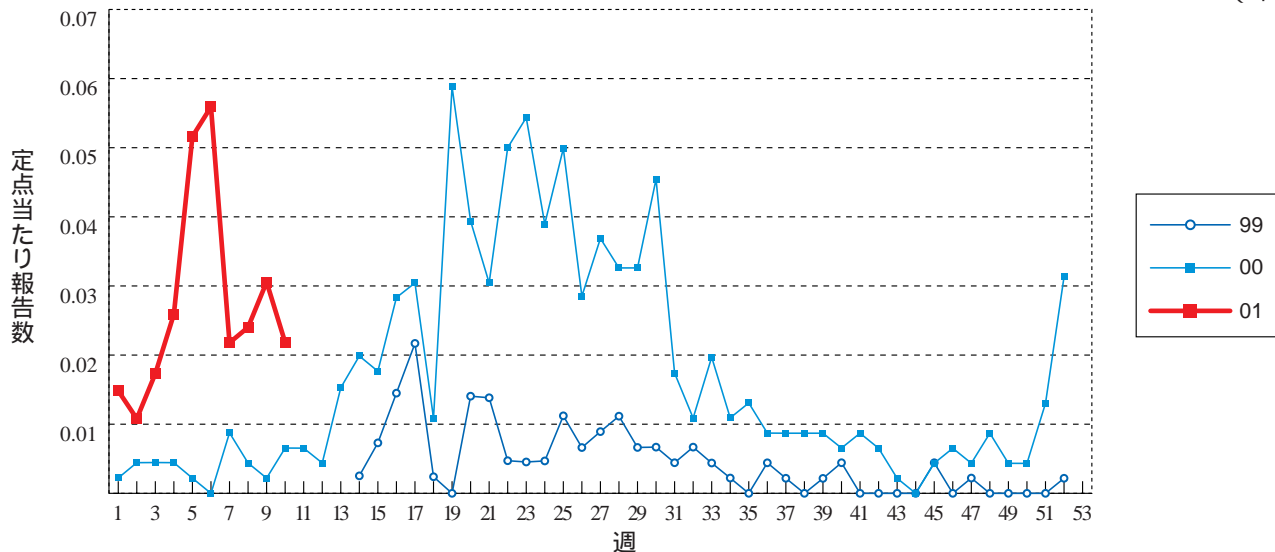
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



成人麻疹

(年)





10週 of データ

注)表中の報告数は3月19日集計分であり、その後の報告数は次週以降の累計に反映されます。

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年10週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		バラチフス	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	8	17	117	-	7	2	2
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	9	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4	23	-	-	2	2	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	9	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	7	-	1	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	10	-	4	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	3	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	9	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年10週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	15	127	5	67	-	-	-	-	-	7	-	-	6	102
北海道	-	-	-	-	1	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
青森県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
宮城県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
秋田県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
埼玉県	-	-	-	-	-	3	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
千葉県	-	-	-	-	-	4	-	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
東京都	-	-	-	-	-	10	2	19	-	-	-	-	-	4	-	-	3	14
神奈川県	-	-	-	-	1	8	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
新潟県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
石川県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
静岡県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	1	12	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
三重県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
滋賀県	-	-	-	-	5	6	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
大阪府	-	-	-	-	1	11	2	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
兵庫県	-	-	-	-	1	9	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
奈良県	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
島根県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
広島県	-	-	-	-	1	10	1	1	-	-	-	-	-	1	-	-	1	3
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
徳島県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
愛媛県	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
高知県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	3	13	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	5	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
沖縄県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年10週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプト スポリジウム症		クロイツフェルト ・ヤコブ病		劇症型溶血性 レンサ球菌感染症		後天性 免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	5	-	-	-	1	1	18	-	9	13	147	-	1	4	26	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	8	-	-	-	1	-	-
東京都	-	-	-	-	1	-	1	-	1	8	62	-	-	3	16	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	2	17	-	-	-	2	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	3	-	-	1	2	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	6	-	-	-	3	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年10週

	髄膜炎菌性 髄膜炎		先天性風疹 症候群		炭 疽		ツツガムシ病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		乳児 ボツリヌス症		梅 毒	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	2	-	-	-	-	41	1	6	-	-	-	-	-	-	-	7	98
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
千葉県	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
東京都	-	1	-	-	-	-	2	1	5	-	-	-	-	-	-	-	2	19
神奈川県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2
岐阜県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
愛知県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
和歌山県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
佐賀県	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
大分県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
宮崎県	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
沖縄県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成13年10週

	破傷風		バンコマイシン耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発疹チフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	5	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	13	-	-	1	15
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	2
神奈川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	1
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
大阪府	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	1
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成13年10週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水 痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百 日 咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	41505	8.97	486	0.16	4729	1.58	29247	9.75	7204	2.40	699	0.23	1288	0.43	2303	0.77	29	0.01
北海道	1283	5.58	9	0.06	295	2.03	700	4.83	269	1.86	4	0.03	42	0.29	87	0.60	-	-
青森県	447	6.98	1	0.02	38	0.93	200	4.88	62	1.51	26	0.63	2	0.05	18	0.44	-	-
岩手県	786	12.68	-	-	64	1.68	377	9.92	63	1.66	2	0.05	40	1.05	18	0.47	-	-
宮城県	1562	16.10	7	0.12	155	2.63	1057	17.92	151	2.56	7	0.12	60	1.02	69	1.17	1	0.02
秋田県	590	10.73	4	0.11	61	1.74	441	12.60	62	1.77	2	0.06	10	0.29	22	0.63	-	-
山形県	535	11.15	-	-	107	3.57	513	17.10	55	1.83	1	0.03	38	1.27	31	1.03	-	-
福島県	952	11.90	-	-	67	1.40	454	9.46	100	2.08	6	0.13	25	0.52	34	0.71	-	-
茨城県	485	4.11	1	0.01	102	1.40	496	6.79	164	2.25	6	0.08	19	0.26	25	0.34	-	-
栃木県	383	5.47	-	-	167	3.63	445	9.67	116	2.52	1	0.02	10	0.22	36	0.78	5	0.11
群馬県	623	6.23	6	0.10	170	2.74	616	9.94	176	2.84	3	0.05	23	0.37	48	0.77	-	-
埼玉県	2889	11.29	19	0.12	347	2.18	2060	12.96	370	2.33	12	0.08	153	0.96	127	0.80	2	0.01
千葉県	1589	7.79	56	0.43	224	1.72	1481	11.39	284	2.18	6	0.05	94	0.72	104	0.80	-	-
東京都	831	4.67	3	0.02	70	0.49	993	6.99	202	1.42	12	0.08	64	0.45	68	0.48	-	-
神奈川県	2051	6.12	36	0.17	216	1.05	1892	9.18	448	2.17	11	0.05	85	0.41	227	1.10	-	-
新潟県	1155	11.67	25	0.42	303	5.05	636	10.60	105	1.75	11	0.18	8	0.13	29	0.48	1	0.02
富山県	394	8.21	3	0.10	97	3.34	317	10.93	78	2.69	-	-	3	0.10	20	0.69	-	-
石川県	476	9.92	14	0.48	59	2.03	509	17.55	90	3.10	8	0.28	7	0.24	23	0.79	1	0.03
福井県	217	6.78	16	0.73	41	1.86	335	15.23	42	1.91	6	0.27	13	0.59	20	0.91	-	-
山梨県	324	7.90	1	0.04	21	0.84	165	6.60	36	1.44	2	0.08	7	0.28	7	0.28	-	-
長野県	568	6.60	9	0.17	134	2.48	590	10.93	158	2.93	4	0.07	18	0.33	54	1.00	1	0.02
岐阜県	388	5.24	5	0.11	98	2.09	332	7.06	82	1.74	11	0.23	16	0.34	29	0.62	1	0.02
静岡県	1632	11.91	7	0.08	93	1.08	809	9.41	344	4.00	13	0.15	34	0.40	71	0.83	1	0.01
愛知県	1775	9.24	50	0.27	250	1.37	1660	9.12	481	2.64	26	0.14	80	0.44	142	0.78	-	-
三重県	985	13.49	33	0.73	51	1.13	632	14.04	125	2.78	15	0.33	25	0.56	54	1.20	-	-
滋賀県	347	7.23	2	0.06	43	1.34	183	5.72	69	2.16	8	0.25	11	0.34	16	0.50	-	-
京都府	869	6.90	3	0.04	83	1.09	686	9.03	117	1.54	5	0.07	24	0.32	46	0.61	-	-
大阪府	3949	13.16	21	0.11	140	0.73	1221	6.33	307	1.59	7	0.04	37	0.19	131	0.68	1	0.01
兵庫県	2322	11.73	13	0.10	204	1.59	1284	10.03	305	2.38	30	0.23	35	0.27	104	0.81	3	0.02
奈良県	995	18.09	-	-	40	1.14	310	8.86	72	2.06	-	-	1	0.03	18	0.51	-	-
和歌山県	455	9.29	1	0.03	27	0.87	224	7.23	67	2.16	-	-	1	0.03	16	0.52	-	-
鳥取県	185	6.38	1	0.05	102	5.37	349	18.37	45	2.37	2	0.11	4	0.21	20	1.05	-	-
島根県	216	5.68	2	0.09	10	0.43	158	6.87	34	1.48	-	-	7	0.30	17	0.74	-	-
岡山県	642	7.64	49	0.91	65	1.20	544	10.07	114	2.11	2	0.04	6	0.11	30	0.56	-	-
広島県	355	4.33	11	0.22	108	2.12	952	18.67	107	2.10	4	0.08	39	0.76	58	1.14	1	0.02
山口県	557	7.96	23	0.47	97	1.98	628	12.82	222	4.53	55	1.12	18	0.37	43	0.88	1	0.02
徳島県	883	23.24	-	-	33	1.43	191	8.30	47	2.04	2	0.09	5	0.22	23	1.00	-	-
香川県	627	12.29	6	0.19	30	0.94	431	13.47	36	1.13	2	0.06	6	0.19	21	0.66	1	0.03
愛媛県	962	15.03	7	0.18	50	1.28	421	10.79	150	3.85	6	0.15	18	0.46	32	0.82	-	-
高知県	1001	20.43	-	-	31	1.00	218	7.03	78	2.52	4	0.13	9	0.29	14	0.45	5	0.16
福岡県	1012	6.21	2	0.02	116	1.10	944	8.99	254	2.42	80	0.76	80	0.76	108	1.03	-	-
佐賀県	393	10.08	5	0.22	28	1.22	301	13.09	76	3.30	25	1.09	11	0.48	47	2.04	-	-
長崎県	334	5.06	1	0.02	16	0.33	206	4.29	75	1.56	56	1.17	17	0.35	22	0.46	-	-
熊本県	164	2.10	17	0.35	66	1.35	689	14.06	187	3.82	70	1.43	33	0.67	39	0.80	2	0.04
大分県	301	5.19	1	0.03	63	1.75	392	10.89	162	4.50	9	0.25	13	0.36	34	0.94	1	0.03
宮崎県	553	9.22	4	0.11	83	2.24	661	17.86	257	6.95	81	2.19	22	0.59	44	1.19	-	-
鹿児島県	1333	13.60	12	0.20	51	0.85	499	8.32	167	2.78	12	0.20	13	0.22	45	0.75	-	-
沖縄県	130	2.24	-	-	13	0.38	45	1.32	193	5.68	44	1.29	2	0.06	12	0.35	1	0.03

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成13年10週

	風 疹		ヘルパンギーナ		麻 疹 (成人麻疹を除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		急性脳炎 (日本脳炎を除く)		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	55	0.02	117	0.04	863	0.29	5267	1.76	31	0.05	699	1.11	2	0.00	3	0.01	16	0.03
北海道	2	0.01	5	0.03	55	0.38	250	1.72	-	-	35	1.21	-	-	-	-	-	-
青森県	1	0.02	-	-	1	0.02	50	1.22	-	-	11	1.00	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	4	0.11	13	0.34	-	-	10	0.83	-	-	-	-	-	-
宮城県	1	0.02	3	0.05	19	0.32	18	0.31	-	-	6	0.55	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	9	0.26	29	0.83	-	-	15	2.14	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	1	0.03	37	1.23	-	-	9	1.13	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	1	0.02	39	0.81	40	0.83	3	0.25	11	0.92	-	-	-	-	-	-
茨城県	1	0.01	-	-	2	0.03	118	1.62	-	-	45	2.81	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	1	0.02	-	-	26	0.57	-	-	19	1.58	-	-	1	0.14	2	0.29
群馬県	-	-	3	0.05	2	0.03	65	1.05	5	0.36	43	3.07	-	-	-	-	-	-
埼玉県	6	0.04	11	0.07	21	0.13	464	2.92	-	-	34	0.94	-	-	-	-	-	-
千葉県	5	0.04	-	-	16	0.12	278	2.14	1	0.03	37	1.06	-	-	-	-	-	-
東京都	3	0.02	4	0.03	12	0.08	149	1.05	-	-	10	0.71	-	-	2	0.08	1	0.04
神奈川県	-	-	7	0.03	21	0.10	458	2.22	1	0.02	23	0.55	-	-	-	-	3	0.27
新潟県	-	-	-	-	-	-	210	3.50	-	-	10	1.11	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	1	0.03	-	-	30	1.03	-	-	5	0.71	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	16	0.55	21	0.72	-	-	3	0.43	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	1	0.05	-	-	181	8.23	-	-	1	0.33	-	-	-	-	2	0.40
山梨県	-	-	-	-	-	-	8	0.32	-	-	1	0.33	-	-	-	-	-	-
長野県	1	0.02	1	0.02	12	0.22	65	1.20	2	0.20	19	1.90	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	2	0.04	12	0.26	70	1.49	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-
静岡県	3	0.03	2	0.02	11	0.13	229	2.66	-	-	14	0.70	-	-	-	-	-	-
愛知県	3	0.02	9	0.05	36	0.20	265	1.46	1	0.03	44	1.26	-	-	-	-	-	-
三重県	1	0.02	5	0.11	9	0.20	100	2.22	1	0.08	2	0.17	-	-	-	-	2	0.22
滋賀県	-	-	-	-	2	0.06	44	1.38	-	-	3	0.43	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	2	0.03	8	0.11	130	1.71	-	-	10	0.56	-	-	-	-	-	-
大阪府	12	0.06	14	0.07	66	0.34	345	1.79	1	0.02	25	0.48	-	-	-	-	-	-
兵庫県	2	0.02	6	0.05	22	0.17	142	1.11	-	-	29	0.83	1	0.07	-	-	-	-
奈良県	1	0.03	1	0.03	16	0.46	54	1.54	-	-	11	1.22	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	3	0.10	10	0.32	17	0.55	-	-	3	0.75	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	6	0.32	25	1.32	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.20
島根県	-	-	-	-	-	-	25	1.09	-	-	1	0.33	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	1	0.02	3	0.06	35	0.65	-	-	11	0.92	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	15	0.29	21	0.41	123	2.41	1	0.08	26	2.17	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	10	0.20	129	2.63	2	0.22	5	0.56	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	17	0.74	1	0.25	9	2.25	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	5	0.16	98	3.06	-	-	3	1.00	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	1	0.03	7	0.18	52	1.33	2	0.29	29	4.14	-	-	-	-	-	-
高知県	2	0.06	1	0.03	102	3.29	10	0.32	-	-	5	1.67	-	-	-	-	-	-
福岡県	2	0.02	9	0.09	91	0.87	300	2.86	-	-	32	1.33	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	1	0.04	63	2.74	-	-	2	0.50	-	-	-	-	1	0.17
長崎県	-	-	2	0.04	9	0.19	44	0.92	8	0.80	14	1.40	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	1	0.02	54	1.10	265	5.41	1	0.11	25	2.78	-	-	-	-	4	0.27
大分県	3	0.08	1	0.03	85	2.36	62	1.72	-	-	2	0.40	1	0.10	-	-	-	-
宮崎県	-	-	1	0.03	6	0.16	26	0.70	1	0.25	18	4.50	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	5	0.08	-	-	24	0.40	50	0.83	-	-	16	2.67	-	-	-	-	-	-
沖縄県	1	0.03	3	0.09	17	0.50	37	1.09	-	-	12	1.20	-	-	-	-	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成13年10週

	マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	58	0.13	3	0.01	10	0.02
北海道	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-
岩手県	1	0.05	-	-	-	-
宮城県	4	0.33	2	0.17	-	-
秋田県	6	0.75	-	-	-	-
山形県	1	0.11	-	-	-	-
福島県	1	0.14	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-
栃木県	1	0.14	-	-	-	-
群馬県	1	0.10	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-
千葉県	1	0.08	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	2	0.08
神奈川県	1	0.09	-	-	1	0.09
新潟県	2	0.15	-	-	-	-
富山県	3	0.60	-	-	-	-
石川県	1	0.20	-	-	-	-
福井県	2	0.40	-	-	-	-
山梨県	4	0.40	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-
愛知県	4	0.31	-	-	1	0.08
三重県	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-
兵庫県	2	0.14	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-
鳥取県	4	0.80	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-
岡山県	2	0.40	-	-	-	-
広島県	4	0.29	-	-	-	-
山口県	1	0.11	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-
香川県	1	0.20	1	0.20	-	-
愛媛県	2	0.33	-	-	-	-
高知県	1	0.13	-	-	1	0.13
福岡県	3	0.20	-	-	4	0.27
佐賀県	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-
熊本県	3	0.20	-	-	-	-
大分県	1	0.10	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	1	0.14
鹿児島県	1	0.08	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-

感染症週報 第3巻、第10号 平成13年3月26日発行
発行：国立感染症研究所

厚生労働省健康局結核感染症課
厚生労働省大臣官房統計情報部

事務局：国立感染症研究所感染症情報センター
〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1
TEL：03-5285-1111
FAX：03-5285-1129

URL：http://idsc.nih.go.jp/index-j.html
<国立感染症研究所 感染症情報センター>
http://www.mhlw.go.jp/
<厚生労働省>
http://www.forth.go.jp/
<旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所)>

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。